解答速報 英語

医学部受験専門予備校 慧修会

2020 年度 東京慈恵会医科大学

【 講 評 】

問題構成は変更され大問 3 題となった。2018 年度に会話問題と文法・語法の大問が消滅し、2019 年度はそれを踏襲したので落ち着いたかに見えたが、今年度から長年最後の大問で出題されていた和文英訳も消滅した。ただし、代わりに大問 1 と大問 3 で、単純な和文英訳よりも思考力を要する英作文が出題された。他大学も含めた昨今の入試の変化を考えると、今後は英作文が「要約」や「意見論述」という形式で出題される可能性もある。昨年度を踏襲した長文読解は、標準的な難易度であるが、一部難易度が高く解答に時間を要する問題もあった。

【 解 答 ・ 解 説 】

1

1.

(A) 4
ガンが身体中に転移したら(A)することが難しい、と言っているので exclude：除く、排除する　が正解となる。

(B) 1
invasion と proliferation とイコールになるものを選べばよい。これらはガンの進行の processes と言えるので、1 が正解となる。

(C) 4
turn to：見る、注目する、始める

(D) 1
accounts for 数量：数量を占める

2.

(1) 1
(2) 4
(3) 3

慧修会

3.　2
ガンの転移のメカニズムを明らかにする実験をしているので、3,4 は不適。また、あくまで転移のメカニズムを調べただけで、その予防までは研究していないので 1 は不適である。

4.　3
1 については後半の to mimic 以下が不適である。anchor cells の遺伝子に手を加えたのは、anchor cell の遺伝子を壊すためである。2 については記述が無く、不適である。4 は本文中に記述があるが、実験の前提となった知識でしかないので、問題文の答えとしては不適である。

5.　1
Anchor cell についての実験をしており、cancer cell の実験をしているわけではないので、2,3 は不適である。また、4 は本文の内容と合致しないので不適である。

6.　解答略
《方針》ガンの進行には分裂と転移の２つのプロセスがあるが、第四段落で「現在のガン治療は分裂する細胞をターゲットにしたものばかりであり、転移する細胞もターゲットにするべきだ」と述べられているので、この内容を盛り込めばよい。

2

Question A.

(a)　life

(b)　but
not on the medical details of the patients cancer (b) on their personal lives. (b)前後はどちらも on~~の形をしており、内容が逆なので、逆接の等位接続詞 but が入る。

(c)　it
make it to~~：~~をうまくやる、成功する、できる

(d)　much

Question B.

1. (D)
第２～４段落まで実験内容が述べられており、肝心の結論が出てこない。この問題の根拠は第５段落で、palliative care を受けた人は長生きしたという結果から、Jackson が意図していた末期患者の残された時間を有意義にする以上の意味が palliative care にはあるという内容になる(D)が正解となる。

2. (A)
空欄以降では、実験群の palliative care の話をしているので、実験群と対照群の違い適切に表現した(A)が正解となる。

3. (B)
palliative care の具体的内容を述べているので、末期患者が残された時間をどう有意義に過ごすか、に関係ある(B)が正解となる。

4. (D)
that 以下を that 節だと考えると、that 節内の主語が欠けているが、どの選択肢を当てはめても文法的に正しい文が作れない。そこで that を指示語だと捉えて(D)の Working が主語だと考えると文法的に説明がつく。

5. (A)
quality of life がどんな指標かの説明になっている(A)が正解となる。

6. (C)
末期患者の死を早めてしまう処置がどんなものか考えれば、(C)が正解となる。

7. (A)
後ろに書かれているのは、対照群とは違って実験群は死を前にして負担の大きい処置を望まず、残された時間の質を上げることを選ぶ、と書いてあるので合致する(A)が正解となる。

8. (B)
chemotherapy 以外の選択肢がない末期患者の状況を表現している(B)が正解となる。

3

1.

(A) 1
文頭に But とあるので、前の文 After a long~~going to win.と逆の内容を表せばよいので 1 が正解となる。

(B) 4
後ろの文でニューロンモデルをコンピューターで作ったと書いてあるので、合致する 4 が正解となる。

(C) 4
裏表出る確率が等しいのが事実なので、4 が正解となる。

(D) 2
otherwise とあり、直前の if 節と逆の仮定をしているので、帰結も逆になる。すなわち、it has to do have similar behaviors と逆のことを言えば良いので、2 が正解となる。

2.

(1) 3
(2) 2
(3) 1
(4) 2

3. 1
第二段落の内容と合致する。

4. 4
第一段落に It's called the gambler's fallacy とあり、直後のコロン以下 After a long streak of losses, you feel you are going to win がその説明。この内容と一致する 4 が正解となる。

5. 4
第五段落の being aware of these biases and what causes them could help us train physicians to be more accurate in their decision-making と合致する 4 が正解となる。3 も間違っているとは言えないが、本文中で明確に示されており、help も一致している 4 の方がより適切である。

6. A new theory focuses on two different types of neurons: the neurons which preferred alternating patterns and those which preferred repeating patterns
《方針》まず、出題の意図をつかむために、空所直後に等位接続詞 and に注目する。空所と並列されている traditional theories do not often distinguish them という記述から、第一に traditional theories との対比の特定、第二に them の指示内容の特定、が出題の意図と分かる。traditional と対比されているのは「新しい理論」「最近の研究」であり、同じ段落内の表現では the study がそれに該当する。また、この the study の内容は第二段落に詳述されているので、them の指示内容も第二段落の最後の文と特定できる。以上に留意しながら、解答を作成する。解答欄の大きさによって、コロン（：）以下は省略してもよい。なお、出典を当たると How likely an event is to occur and when it is to occur are two different questions とあるが、これを書ける受験生はほとんどいないと思われる。